

## 創造する日本の女性

千葉大学文学部 若 桑 みどり

私の話は過去数千年にわたって継続してきた家父長制社会における女性の役割と位置について考察し、その脱構築を提言することを目的としている。論点は以下の5点である。

### 1 家父長制社会の基本的構造

家父長制社会の基本構造は以下のようなものである。

- ・年長男性家長による諸権力の独占
- ・年長男性による他者(女性、年少者、異国人、弱者、異端)の支配と差別の構造化と制度化
- ・モノの「生産」を、生命の「再生産」よりも重視し、生命の創造者である女性のジェンダーを周縁化(現在の少子化はその位置結果である)

### 2 家父長制社会における「女性」の位置

- ・公的領域ならびに生産の現場からの女性の締め出しと私的領域への囲いこみ
- ・再生産の道具
- ・私的、公的領域での従属的なまたは下級な労働への組織化(主婦・女中・家内工業労働者・不規則労働者その他)

### 3 男性支配型社会から男女協調型社会への転換

- ・生命の再生産とモノの生産の価値を対等にする仕組みと意識の改革—生命と女性の復権
- ・社会の中核への女性の進出—周縁からの脱出
- ・再生産役割への囲い込みからの女性の解放—すべての文化の創造にかかわる権利

---

1960年東京芸術大学美術学部芸術学科卒業

1961～63年ローマ大学哲学・考古学大学院に留学

東京芸術大学教授、千葉大学文学部史学科教授

代表的著作「女性画家列伝」岩波新書、「戦争がつくる女性像」筑摩学芸文庫、「象徴としての女性像—ジェンダー史からみた家父長制社会の女性表象」筑摩書房その他